

都道府県高等学校野球連盟

審判委員の皆様へ

日本高等学校野球連盟

審判規則委員会

「甲子園から全国へ・・・2012春」

第84回選抜高等学校野球大会を終えて

東日本大震災から一年。今年も高校野球に携わる数多くの方々のご尽力のもと、無事選抜大会が実施されました。

高校野球関係者の一員として、球児のひたむきさに昨年にも増して

“選手諸君、本当にありがとう”と心から感謝申し上げますとともに、球児達の全力プレイが、日本中に勇気と感動を与えていただいたと確信しています。

さて、大会前の監督会議にて確認したことと最近のトラブルについて少し触れておきます。

① 練習中及び試合中の安全対策について

過去、打球に対する痛々しい事故を経験にプロ・アマ問わず安全対策が講じられてきました。高校野球では選手の安全管理面での指導の中で、

「次打者は次打者席では投手が投手板に位置したならば低い姿勢でプレイに注目しなければならぬ」と申し合わせをしています。趣旨は十分理解いただいていると思いますが「低い姿勢」＝「座る」ではなく、ファールボールを避けることの出来る体勢と伝えました。よって、中腰姿勢OKとの解釈です。

② 「高校野球特別規則の理解について」

ご承知の通り、特別規則は26項目設けられ、日本高野連・各都道府県高野連が主催する高等学校野球大会に適用しています。

私達審判委員は「審判の手引き」にて、日常忘れることなく試合に臨んでいますが、全国加盟校の指導者へはどのような方法で周知徹底がなされているのでしょうか。近年では「同一イニングでの投手の守備変更」、「臨時の代走者」、「審判に対しての疑義申し出」等、指導者又は審判委員の理解不足ゆえのトラブル或いは試合遅延となった事例が発生しています。

各都道府県におかれましては、今一度連盟と加盟校との間で連携いただきますようお願いを申し上げます。

又、規則に関する情報提供として「高校生のための野球規則のABC」改正版をDVD化して完成し、すでに全国加盟校へ配布致しました。

複雑と思われるルールを解りやすく説明がなされておりますが、規則書を引用しながら、高校生と共に理解を深めていただければ幸甚に存じます。

購入につきましては、日本高野連HPにアクセスください。

日本高野連では新しい試みとして2月に「高校野球・Umpire Coaching Clinic」を開催致しました。1回目は平成23年選抜大会・選手権大会の派遣審判都道府県から審判指導の責にある方を各1名ずつ参加していただき、日本高野連審判規則委員会を主体とするメンバーと連携し、審判技術の向上と正しい指導方法の習得を研鑽致しました。1回目につき、カリキュラムでは研修内容も不十分な点もあり反省致していますが、次回からは参加者の終了アンケートを基に、より充実したClinicに展開していきたく存じます。参加された都道府県におかれましては、地元での講習会に積極的にご活用賜ります様、何卒よろしくお願い申し上げます。

以上